

救 急 医 学 〈F2〉

オーガナイザー

救急・集中治療部 加藤 正哉

I 一般学習目標

医療全体の中での救急医学の役割を認識し、生命危機に値する生体侵襲と病態生理を理解する。

II 個別学習目標

(1) 救急医学総論

1. 救急医療システムが理解できる。
2. 救急医療の歴史を理解し地域における救急医療の問題点を把握する。
3. 救急診断の特殊性を理解し一般診療との違いを述べることができる。
4. メディカルコントロールについて理解する。

(2) 心肺蘇生

1. BLS が実施できる。
2. ACLS が理解できる。

(3) 外傷

1. 外傷診療の仕組みとその手順が理解できる。
2. 病院前、病院内での診療ガイドラインが理解できる。
3. 頭部・胸部・腹部・四肢外傷に対する緊急対応が理解できる。

(4) 救急外来診察と画像診断

1. 救急患者の診察手順を理解できる。
2. 救急外来・集中治療室における画像診断の適応が理解できる。
3. 代表的な救急疾患の特徴になる画像を説明できる。

(5) Acute care surgery

1. 急性腹症の鑑別と病態が理解できる。
2. 緊急手術、緊急内視鏡の適応と処置が理解できる。
3. ダメージコントロールサージェリーの概念が理解できる。

(6) 症状：徴候からみた救急疾患

1. ショックの病態と分類が理解できる。
2. 重症呼吸不全の病態と分類が理解できる。
3. 急性腎不全の病態が理解できる。
4. 多臓器不全の病態が理解できる。

(7) 重症救急患者の管理

1. 人工呼吸器の適応と設定が理解できる。
2. 血液浄化法の分類と適応が理解できる。
3. 補助循環の適応が理解できる。

(8) 救急特殊疾患

1. 急性中毒のスクリーニングと初期治療が理解できる。
2. 熱傷の病態と全身管理が理解できる。
3. 熱中症、偶発性低体温の病態と治療が理解できる。

(9) 災害医療

1. 集団災害の定義と概念が理解できる。
2. 我が国の災害医療対応システムが理解できる。
3. トリアージが理解できる。

Ⅲ 講義項目と担当者

1. 救急医学総論	救急・集中治療部	加藤 正哉
2. 心肺蘇生	救急・集中治療部	川嶋 秀治
3. 外傷	救急・集中治療部	上田 健太郎
4. 救急外来診察と画像診断	救急・集中治療部	米満 尚史
5. Acute care surgery	救急・集中治療部	山添 真志
6. 重症救急患者の管理	救急・集中治療部	宮本 恭兵
7. 症状：徴候からみた救急疾患	救急・集中治療部	辻本 登志英
8. 救急特殊疾患	救急・集中治療部	中島 強
9. 災害医療	救急・集中治療部	那須 亨

Ⅳ 推薦テキスト及び参考書(◎テキスト)

標準救急医学第5版 ◎	医学書院	本体	7,500 円
今日の救急治療指針第2版	医学書院	本体	13,000 円
外傷初期診療ガイドライン (第5版)	へるす出版	本体	15,000 円
改訂第2版 DMAT 標準テキスト	へるす出版	本体	5,200 円
JRC蘇生ガイドライン2015	へるす出版	本体	3,700 円

Ⅴ 評価方法

授業の60%以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。

定期試験で60%以上の得点をもって合格とする。

講 義 日 程 表

救急医学

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	R2.4.10	(金)	5	救急医学総論	救急集中治療部	加藤
2	R2.4.21	(火)	4	心肺蘇生	救急集中治療部	川嶋
3	R2.4.21	(火)	5	重症救急患者の管理	救急集中治療部	宮本
4	R2.4.22	(水)	3	救急特殊疾患	救急集中治療部	中島
5	R2.4.24	(金)	3	救急外来診療と画像診断	救急集中治療部	米満
6	R2.5.13	(水)	1	外傷	救急集中治療部	上田
7	R2.5.14	(木)	1	症状:徴候からみた救急疾患	救急集中治療部	辻本
8	R2.5.15	(金)	5	Acute care surgery	救急集中治療部	山添
9	R2.5.27	(水)	1	災害医療	救急集中治療部	那須